デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業評価シート

（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

No	① 交付対象事業の名称	② 実績額（総事業費）単位：円	③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） 指標		単位	④ 事業実施計画の申請時点での**当初値**	⑤ 実施計画の申請時点での**目標値** 2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022年度終了時点の目標値 ＊開始前実績値＋KPI増加分の合計	⑥ 2022年度終了後における**実績値** 実績値	⑦ 目標値未達の場合の理由 最も大きな理由	次に大きい理由	左記を選択した理由	⑧ 自己評価 事業効果	理由	⑨ 外部有識者からの評価 事業の評価	外部有識者からの意見	⑩ 今後の事業展開の方向性 今後の方針	今後の方針の理由
1	**群馬県産材を利用した高次加工構造材技術開発拠点整備** **【林業試験場木材加工技術センター】** ・木材加工技術センター整備	68,368,000	指標①	県産人工乾燥材生産量	千㎥	39.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	(2022) 43	(2022) 39	①外的要因	③その他	・指標①について、県産材需要量が伸び悩み（2018年 328千㎥→2021年 336千㎥）、これに伴って乾燥材の生産量も増加しなかった。 ・指標②について、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」）蔓延の影響により、2020年度以降企業の研究開発が滞ったことで支援件数が伸び悩んだ。	③地方創生に効果があった	・KPIの目標値は達成できていないが、本事業を実施したことで、高齢級林から得られた大断面長尺材の高い性能を確認することができた。また、県内の木材業界においてJAS認証材の必要性を認識できた。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・新型コロナの影響により、県産材の需要量が伸び悩んだことが指標に強く影響したと考えられる。 ・継続した研究開発支援を通じ、県産材の需要拡大につながる取組を推進していただきたい。	②事業内容の見直し（一部事業の見直しを伴う継続）	・今後は住宅だけでなく、公共施設や商業施設等、非住宅木造建築の推進を支援するため、林業試験場におけるJAS認証取得に向けた取組を実施する。
			指標②	住宅・木材分野における研究開発支援件数	件	1	0	1	1	1	2	(2022) 6	(2022) 2									
2	**「ぐんまのアユ」復活に向けた冷水病耐性アユ「江戸川系」生産拠点整備【水産試験場】** ・アユ屋内飼育棟施設整備 ・飼料培養棟施設整備	34,477,864	指標①	江戸川系種苗の利用率	%	9.26	0.00	29.99	7.63	11.43	7.62	(2022) 65.9	(2022) 100.00			KPI達成	③地方創生に効果があった	・江戸川系アユは、アンケート調査から、漁業協同組合を始めとした関係者からの評価が良い。江戸川系アユを安定的に供給できたことで、地方におけるアユ漁場の賑わいに伴う新たな人の流れの推進、業界の所得向上に寄与があったと考えられる。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標①、②について、目標を達成しており、十分な事業効果が認められる。 ・指標①について、江戸川系種苗の利用率が100%に達しており大きな効果があったと考えられる。 ・引き続き優良種苗の作出に向けた取組を続けていただきたい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・江戸川系アユの改良を行い、さらなる種苗性の向上を図っており、今後も、病気に強く健康な優良種苗の作出に向けた取組を行っていく。
			指標②	アユ遊漁者の増加	人	33,200	0	800	700	1,000	1,300	(2022) 37,000	(2022) 37,000									
3	**ぐんまイノベーションファーム（次世代型園芸施設）整備事業** **【県立農林大学校】** ・環境制御装置を備えた野菜・花き・果樹栽培温室の整備	132,791,399	指標①	農業産出額（キュウリ、イチゴ、切バラ）	億円	155	0	3	3	3	3	(2022) 167	(2022) 2024年3月公表予定	①外的要因		・指標①について、2024年3月に公表される予定。 ・指標②について、雇用就農者が▲35人と大幅に減少したため、187人となった。これは、資材高騰等が影響し、規模拡大・雇用増加を進める法人が減少したためと思われる。一方、新規就農者の営農部門における園芸の割合は、68%から77%に増加した。	②地方創生に相当程度効果があった	・本事業では、最先端の環境制御技術を導入し、人材育成とともに県内農業者への普及推進拠点として、農業技術センターや関係団体とも連携し、生産性の向上に取り組んでいる。施設整備後の視察者は、県内生産者を中心に累計785名となっており、関心の高さがうかがえる。 ・施設野菜及び花きにおける環境制御技術導入農家戸数は、2018年度に73戸だったものが、2021年度には、目標の130戸に対し、143戸まで増加、さらに2022年度は153戸に拡大し、産出額の拡大に貢献していると考えられるため。 ・少子化により入校生の減少が懸念される中、このような高度な農業施設の学習環境を外部に発信することは、農業を志す学生の掘り起こしに大変有効である。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標①について、未公表であるものの、昨年度時点の実績（163億円）から鑑みて目標を達成する可能性が大いにある。 ・指標②について、雇用就農者が大幅に減少した影響を受け目標未達であったが、魅力ある農業の情報発信により、新規就農者中の園芸の割合は上昇しており一定の効果があったと考えられる。 ・施設整備後の視察者は累計785名となっており、関心の高さがうかがえる。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	今後も人材育成、普及推進の拠点として、施設を活用していく。
			指標②	年間新規就農者数（45歳未満）	人	196	0	10	10	10	10	(2022) 236	(2022) 187									
4	**ものづくり産業高度化・革新のためのイノベーション拠点整備** **【産業技術センター】** ・高精度測定室整備 ・新素材開発・分析ラボ整備 ・電波暗室整備	572,990,876	指標①	産業技術センター 利用企業の経済効果	百万円	5,277	0	256	256	256	256	(2022) 6,301	(2022) 12,311	①外的要因	③その他	・指標②について、新型コロナによって、企業の製品開発停滞や、生産数量が減少したことによる生産トラブル減によって、試験・分析を依頼する機会（対象物）が減ったことが原因と考えられる。	②地方創生に相当程度効果があった	・指標①及び指標③について、目標を達成できた。 ・指標②について、95%の達成率であり、未達ではあるが目標値に非常に近い結果になった。 ・新型コロナによって利用制限があったものの、整備した施設・機器を活用して企業への支援を継続したことで、企業の経済効果が大きくなったと推察される。そのため、相当程度の効果があったと考えられる。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標①及び③について、目標を達成しており、十分な事業効果が認められる。特に①については目標値を大きく上回る成果があった。 ・指標②について、新型コロナの影響がある中で目標の95%近くを達成しており、一定の効果があったと考えられる。 ・引き続き、整備した施設を活用し、地域企業への支援を継続していただきたい。	⑤予定通り事業終了	・本事業による施設・機器整備は2018年度内に完了している。 ・今後も整備した施設、機器を活用して技術支援を行うことで、地域企業における技術支援拠点として、地域産業の発展に寄与していく。
			指標②	産業技術センター 依頼試験等収入額	百万円	160	0	7	7	7	7	(2022) 188	(2022) 178									
			指標③	産業技術センター 技術相談件数	件	21,000	0	250	250	250	250	(2022) 22,000	(2022) 23,570									
5	**蚕糸業活性化に向けた蚕用人工飼料製造及び周年養蚕研究拠点整備【群馬県稚蚕人工飼料センター】** ・桑葉乾燥粉末調整施設整備 ・人工飼料湿体調整施設整備 ・クリーンルーム整備	292,875,000	指標①	繭1,000kgあたりの生産コスト削減	円	4,041,000	0	0	-44,100	-44,100	-44,200	(2022) 3,908,600	(2022) 4,041,000	①外的要因		・指標①について、繭生産コスト削減のため、低コスト人工飼料の開発を実施中。	③地方創生に効果があった	・実用飼育可能なGMカイコ品種数の増加により、新しいシルク産業創出の可能性が広がり、今後飼育量、繭生産量の増加が期待できる。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標②について、目標値を達成しており、施設整備の効果が認められる。 ・指標③について、目標未達ではあるものの毎年着実に生産数を伸ばしている。 ・引き続き、生産コストの削減、付加価値の付与等に係る取組を進めていただきたい。	②事業内容の見直し（一部事業の見直しを伴う継続）	繭生産コストの削減や付加価値の高い繭生産のため、低コスト人工飼料の開発とGMカイコの飼育拡大等に向けて引き続き実施していく。
			指標②	実用飼育用GMカイコ作出数	種	0	0	0	1	1	2	(2022) 4	(2022) 8									
			指標③	GMカイコ繭生産量	kg	176.00	100.00	200.00	400	400	400	(2022) 1,676	(2022) 1,595.2									
6	**地域資源を守る野生鳥獣捕獲の担い手確保拠点整備** **【クレー射撃場への併設】** ・大口径ライフル射撃施設整備	241,111,000	指標①	銃器によるシカ・イノシシ捕獲頭数	頭	7,257	0	60	360	460	560	(2022) 8,697	(2022) 4,373	③その他	①外的要因	・指標①～③について、安全対策に係る追加工事が必要となり、ライフル射撃施設が供用開始しておらず、効果の評価はできていない。 ・指標③について、コロナ禍の影響も受け、入山者数が少なかったため目標未達となった。	③地方創生に効果があった	・ライフル射撃施設が稼働すれば、狩猟者の育成拠点として、今後の効果が期待されるため。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・施設整備自体は、計画どおりに完了しているため、関係者間の調整について早急に進めていただきたい。 ・必要な工事や手続きを経た上で、供用開始し、鳥獣捕獲の担い手確保に取り組んでいただきたい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・安全対策に係る不測の対応を強いられたが、早期の供用開始を目指し、鳥獣捕獲の担い手確保対策を推進していく。
			指標②	農林業被害額軽減	千円	609,933	0	-3,000	-31,200	-39,620	-48,100	(2022) 488,013	(2022) 499,952									
			指標③	尾瀬国立公園入山者数	人	284,390	0	0	4,120	5,200	6,300	(2022) 300,010	(2022) 163,223									

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業評価シート

（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

No	① 交付対象事業の名称	② 実績額（総事業費） 単位：円	③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） 指標		単位	④ 事業実施計画の申請時点での**当初値**	⑤ 実施計画の申請時点での**目標値** 2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022年度終了時点の目標値 ＊開始前実績値＋KPI増加分の合計	⑥ 2022年度終了後における**実績値** 実績値	⑦ 目標値未達の場合の理由 最も大きな理由	次に大きい理由	左記を選択した理由	⑧ 自己評価 事業効果	理由	⑨ 外部有識者からの評価 事業の評価	外部有識者からの意見	⑩ 今後の事業展開の方向性 今後の方針	今後の方針の理由
1	**アーチェリーを活用した地域活性化拠点整備** **【総合スポーツセンター】** ・射場改築 ・屋内型サブフィールド新築 ・クラブハウス新築	162,491,000	指標①	合宿等に伴う県外からの施設利用者数（延べ人数）	人	0	0	80	20	20	(2022) 120	(2022) 0	①外的要因	③その他	・指標①について、新型コロナの影響により合宿誘致を行えなかった。 ・指標③について、占有利用の大規模大会の開催が少なく収入増につながらなかった。	③地方創生に効果があった	・本事業を実施したことで、イベントや練習会の開催等が増加し、利用者の大幅増につながった。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・新型コロナの影響により、合宿等に伴う県外からの施設利用がなかったが、施設を利用した延べ人数は、目標値を大きく上回った。 ・多額の総事業費を投じた事業であり、今後は合宿誘致、大会誘致に力を入れ、より一層県内外から利用が増加し収入増につながるよう取り組んでいただきたい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・大会の誘致に力を入れるとともに、利用者の満足度を向上させ、一層の利用者増加を図っていく。
			指標②	施設利用者数（延べ人数）	人	2,600	0	400	400	400	(2022) 3,800	(2022) 14,158									
			指標③	施設利用料金収入	千円	0	0	810	204	204	(2022) 1,218	(2022) 954									
2	**次世代繊維産業支援施設整備** **【繊維工業試験場】** ・人間工学評価室の新設整備	108,030,000	指標①	商品化件数	件	0	0	1	2	3	(2022) 6	(2022) 8			KPI達成	②地方創生に相当程度効果があった	・KPIを達成できた。特に、県内外の企業の利用が多く、順調に推移している。現在は、非繊維分野の製品・材料評価にも多く利用されており、関連する次世代繊維産業への発展にも寄与しているものと考えている。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・昨年度に引き続き、いずれの指標についても目標値を達成しており、施設整備の効果が十分に認められる。 ・特に技術相談については、目標値の倍以上の相談を受け付けている。 ・このような技術相談への対応を通じて、県内企業の次世代繊維産業への発展等につながる支援を期待したい。	②事業内容の見直し（一部事業の見直しを伴う継続）	・今後はSNS等で各企業への周知活動に加え、露付き試験や熱交換効率測定試験にも応用できるポイントをアピールしていき、企業の商品開発の一助になる施策を通じて利用者の拡大を図ると同時に次世代繊維製品の開発につなげていく。
			指標②	依頼試験手数料	万円	0	0	80	70	70	(2022) 220	(2022) 306									
			指標③	技術相談件数	件	0	0	100	50	50	(2022) 200	(2022) 540									

R1補正

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業評価シート

（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

No	① 交付対象事業の名称	② 実績額（総事業費） 単位：円	③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） 指標		単位	④ 事業実施計画の申請時点での**当初値**	⑤ 実施計画の申請時点での**目標値** 2020年度	2021年度	2022年度	2022年度終了時点の目標値 ＊開始前実績値＋KPI増加分の合計	⑥ 2022年度終了後における**実績値** 実績値	⑦ 目標値未達の場合の理由 最も大きな理由	次に大きい理由	左記を選択した理由	⑧ 自己評価 事業効果	理由	⑨ 外部有識者からの評価 事業の評価	外部有識者からの意見	⑩ 今後の事業展開の方向性 今後の方針	今後の方針の理由
1	**Gunma Innovation Top Floor 整備事業** **【群馬県庁32階】** ・Gunma Innovation Top Floor　イノベーション・ハブ整備 ・Gunma Innovation Top Floor　イノベーション・ハブ備品整備	199,278,035	指標①	イノベーション・ハブで開催されるセミナー、イベント等の件数	件	0	29	48	24	(2022) 101	(2022) 599	①外的要因		・指標②について、コロナ禍により、32階に直接来場する人が少なかったため。	③地方創生に効果があった	・指標③について、目標10件を超える36件の地域課題を解決に導いた。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標②について、目標値に達しなかったが、指標①については目標値の5倍以上の件数となっている。 ・指標①に係るセミナー等へのオンライン参加を考慮すると、施設整備に一定の事業効果があったものと考えられる。 ・新型コロナの5類移行により、リアルでのイベント参加が増えることが見込まれる一方で、利便性を向上させるなど、来場者を増やす取組に期待したい。 ・今後も有益な情報発信拠点、イノベーションが生まれる場として、地域課題の解決に向けた取組が進むことに期待したい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・指標③について、各部局との相談会(2+2ミーティング)を定期的に実施し、デジタル技術を活用した課題解決を図る。
			指標②	群馬県庁32階の来場者数	人	198,670	20,000	50,000	40,000	(2022) 308,670	(2022) 178,220									
			指標③	地域課題解決ラボラトリーによる実証事業実施件数	件	0	10	10	10	(2022) 30	(2022) 36									
2	**機能材料開発研究室整備計画** **【群馬県立産業技術センター】** ・機能材料開発研究室整備	60,698,000	指標①	産業技術センター 環境技術開発関連の依頼試験等収入額	千円	276.72	0	1,750	500	(2022) 2,526.72	(2022) 3,050.00			KPI達成	②地方創生に相当程度効果があった	・指標②について、クリーンルームである機能材料開発室の整備により、地場食品企業社内での廃棄物リサイクル研究の支援に活用することができ、目標を達成した。 ・指標①及び③について、当研究室で硫黄含有樹脂の評価研究を行うことで、地域企業の技術相談他依頼試験の増加につなげることができ、目標を達成した。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・全ての指標について、目標値を達成しており、十分な事業効果があったと認められる。 ・このような事業成果を活かし、引き続き、本県における環境調和型の産業育成を推進していただきたい。	⑤予定通り事業終了	・本事業による施設・機器整備は2020年度で完了しており、整備事業としては終了。 ・今後も、機能材料開発研究室を活用した高感度炭素硫黄分析をはじめ、環境技術開発分析のPRを行い、利用企業の増加を図る。 ・分析事例を重ね、評価技術のレベルアップを図り、企業の環境調和型のものづくりを支援していく。
			指標②	産業技術センター 環境技術開発関連の外部資金獲得額	千円	0	0	1,000	1,000	(2022) 2,000	(2022) 2,350									
			指標③	産業技術センター 環境技術開発関連の技術相談件数	件	96	0	100	25	(2022) 221	(2022) 238									
3	**次世代繊維対応型開発・評価空間整備事業** **【繊維工業試験場】** ・化学試験室整備 ・空間除電システム環境整備	24,706,000	指標①	商品化件数	件	2	0	1	1	(2022) 4	(2022) 4			KPI達成	①地方創生に非常に効果的であった	・本事業で整備した空間除電システムは、導入直後から、絹糸等の整経加工（織物のたて糸を作る加工）や製織で利用された。 ・化学試験室を整備したことによって、新規導入装置を設置することができたため、企業の要望に貢献することが可能となり、産地の活性化に大きく寄与できた。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・全ての指標について、目標値を達成しており、十分な事業効果があったと認められる。 ・整備した施設を活用し、引き続き、県内中小繊維関連企業の次世代産業への参入支援等を行っていただきたい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・整備した施設等を継続的に稼働させることによって、研究員のスキルや知識を向上させることが可能となり、企業から多くの要望がある、高機能繊維の開発支援を発展させることが期待できるから。
			指標②	依頼試験手数料	千円	6,264.0	0.0	250.0	250.0	(2022) 6,764	(2022) 8,999									
			指標③	技術相談件数	件	0	5	5	5	(2022) 15	(2022) 31									
4	**酪農生産性改革研究施設整備** **【群馬県畜産試験場搾乳牛舎】** ・搾乳牛舎の増設整備 ・堆肥化処理施設の改修整備 ・乳牛育成牛舎整備	227,897,913	指標①	牛群(経産牛)1頭当たり年間生乳生産量	kg	9,300	0	0	57	(2022) 9,357	(2022) 9,357			KPI達成	③地方創生に効果があった	・牛舎・施設の整備により、ICT、IoTを活用した大幅な自動化を行い、省力・低コスト生産による働き方改革と収益の向上を図るための技術開発拠点の整備ができた。 ・全ての施設が完成し、稼動開始から２年目に入り、計画した目標値を順調に達成できたと考えられるため。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標①、②について、目標値を達成しており、十分な事業効果があったと認められる。 ・指標③については2023年度から目標値を設定している。 ・整備した施設を活用し、省力化・低コスト化の生産に向けた技術開発を推進していただきたい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・省力・低コスト生産による働き方改革と収益の向上を図るための研究および実証拠点としてデータの蓄積を行い、生産現場への普及と基盤強化を図る。
			指標②	分娩産子のうち乳用雌牛分娩割合	%	48.00	0.00	0.00	3.00	(2022) 51	(2022) 51									
			指標③	牛群(経産牛)の1頭当たり分娩間隔日数	日	466	0	0	0	(2022) 466	(2022) 466									

R2補正

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業評価シート

（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

No	① 交付対象事業の名称	② 実績額（総事業費） 単位：円	③ 本事業における重要業績評価指標（KPI）			④ 事業実施計画の申請時点での**当初値**	⑤ 実施計画の申請時点での**目標値**			⑥ 2022年度終了後における**実績値**	⑦ 目標値未達の場合の理由			⑧ 自己評価		⑨ 外部有識者からの評価		⑩ 今後の事業展開の方向性	
			指標		単位		2021年度	2022年度	2022年度終了時点の目標値 ＊開始前実績値＋KPI増加分の合計	実績値	最も大きな理由	次に大きい理由	左記を選択した理由	事業効果	理由	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
1	**黒毛和種改良研究・優良黒毛和種受精卵供給施設整備** **【群馬県畜産試験場繁殖育成牛舎】** ・畜産試験場繁殖育成牛舎 ・畜産試験場堆肥舎	39,944,744	指標①	群馬県の黒毛和種繁殖雌牛頭数	頭	7,570	20	20	(2022) 7,610	(2022) 8,000	③その他	①外的要因	・新型コロナの影響や、飼料高騰、子牛価格の下落等により酪農家での肥育素牛受精卵の利用が減少したため。	②地方創生に相当程度効果があった	・指標③について、目標を達成できなかったが、和牛改良用として準備したスーパー黒毛和種受精卵は、供給予定の132個すべてが配布でき、移植されたことで、県内黒毛和種の改良に効果があったと考えられるため。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標①、②について、目標値を達成し、事業効果があったと認められる。 ・指標③について、今後黒毛和種受精卵の供給体制を整えることで次年度以降の目標達成を期待したい。 ・整備した施設を活用し、県内全域に高能力受精卵を広め、県内肉牛の品質の底上げを図ることで、本県の農業所得向上、稼ぐ地域の実現を目指していただきたい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・今後も繁殖基礎牛の改良を進め、希望の多いスーパー黒毛和種受精卵の供給を増やし、県内黒毛和種の改良に努める。
			指標②	県内肉用牛農家へのICT機器導入戸数	戸	30.00	0.00	4.00	(2022) 34	(2022) 34									
			指標③	黒毛和種受精卵の供給個数	個	525	0	80	(2022) 605	(2022) 431									

R3補正・R4当初

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業評価シート

（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

No	① 交付対象事業の名称	② 実績額（総事業費） 単位：円	③ 本事業における重要業績評価指標（KPI）			④ 事業実施計画の申請時点での**当初値**	⑤ 実施計画の申請時点での**目標値**		⑥ 2022年度終了後における**実績値**		⑦ 目標値未達の場合の理由			⑧ 自己評価		⑨ 外部有識者からの評価		⑩ 今後の事業展開の方向性	
			指標		単位		2022年度	2022年度終了時点の目標値 ＊開始前実績値＋KPI増加分の合計		実績値	最も大きな理由	次に大きい理由	左記を選択した理由	事業効果	理由	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
1	**自然豊かな県立公園拠点整備【県立赤城公園】** ・基本設計 ・実施設計	9,500,000	指標①	体験型交流拠点施設（現ビジターセンター）の利用者数	人	41,824	0	(2022) 41,824	(2022) 57,264				KPI達成	③地方創生に効果があった	・2022年10月に策定された「県立赤城公園の活性化に向けた基本構想」が県民に浸透してきていることで、期待値が増してきており、公園利用者の増加に繋がっているため。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・現在設計段階であるが、すべての指標が上昇しており、事業に対する期待値の高さがうかがえる。 ・整備した施設を活用し、魅力的な観光地域づくりを進め、観光産業の活性化を進めていただきたい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・現在、設計段階であり、今後工事を実施するため。
			指標②	赤城山における消費額	億円	10.11	0	(2022) 10	(2022) 15										
			指標③	赤城山への路線バス利用者数	人	13,871	0	(2022) 13,871	(2022) 16,373										
			指標④	アウトドアフィールド（現キャンプ場）の宿泊者数	人	840	0	(2022) 840	(2022) 2,463										
2	**Gunma Innovation 2 Floors From The Top Floor整備事業【群馬県庁31階】** ・Gunma Innovation 2 Floors From The Top Floor プチマルシェ ・Gunma Innovation 2 Floors From The Top Floor キッチン ・Gunma Innovation 2 Floors From The Top Floor プチマルシェ　備品整備 ・Gunma Innovation 2 Floors From The Top Floor プチマルシェ　什器	84,392,880	指標①	年間のマルシェ利用者数（出店者を除く）	人	0	2,000	(2022) 2,000	(2022) 0	③その他		・2022年度に施設を整備し、2023年度に事業開始。		③地方創生に効果があった	・2022年度末に施設整備が完了した。 ・2022年度は事業を開始していないが、事業内容について事前に知事記者会見等で周知したことにより、一定の効果があった。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・予定どおり施設整備が完了したということで、進捗は順調なようである。 ・整備した施設を活用し「若者の活躍の場」「居心地のよいまちなか」を創出し、整備コストに見合った効果（地域の活性化と県民所得の向上）を期待したい。	②事業内容の見直し（一部事業の見直しを伴う継続）	・施設の周知活動に加え、イベント等の誘致、伴走支援に力を入れ、利用者等の増加に向けた取組を実施していく。
			指標②	年間の出店件数	件	0	100	(2022) 100	(2022) 0										
			指標③	年間の県庁舎31階の来場者数	人	195,000	10,000	(2022) 205,000	(2022) 不明										
3	**主要農作物原種生産施設拠点整備【農業技術センター】** ・第３低温貯蔵室 ・省力管理設備整備 ・原種栽培設備整備	171,149,295	指標①	パン用小麦の作付けによる農業所得増加額（2021年比）	万円	0	634	(2022) 634	(2022) 0	③その他	①外的要因	・土壌伝染性病害である、なまぐさ黒穂病が多発したことで、作付け面積が減少し、想定より農業所得が増加しなかったため。		③地方創生に効果があった	・2022年度末に施設整備が完了した。 ・KPIの目標値は達成できていないが、本事業を実施したことで、増設貯蔵庫において原種の積み込みなどの扱いにかかる労力削減ができるなど、一定の効果があったため。	（本事業が地方版）総合戦略のKPI達成に有効であった	・予定どおり施設整備が完了したということで、進捗は順調なようである。 ・指標①、②について、目標値を達成できていないが、施設の供用開始が2022年度末であったため、事業効果の有無を測ることはできない。 ・整備した施設を活用し、今後需要の増加が見込まれるパン用小麦品種をはじめ、収容量の増加と、効率的な原種生産、管理につなげていただきたい。	③事業の継続（事業変更を伴わない継続）	・現在、畑の作付けに限らず、タンパク質含有率を確保できる適切な肥培管理を前提として二毛作水田における作付け面積拡大を図っているところ。
			指標②	パン用小麦の栽培面積拡大	ha	304	41	(2022) 345	(2022) 270										
			指標③	有望なオリジナル小麦選抜系統数	系統	0	0	(2022) 0	(2022) 0										
			指標④																